

目次

(FEC→パクリタキセル)＋ハーセプチン	1
bev＋ (weeklyパクリタキセル→FEC)	2
bev＋ (weeklyパクリタキセル→FEC)	3
Bev＋Docetaxel	4
Bev＋FEC75	5
Bev＋FEC100	6
Bev＋triweeklyアブラキサン	7
Bev＋Xeloda	8
CAF	9
Classical CMF	10
Classical CMF＋ハーセプチン	11
乳癌CPT-11	12
dose-dence AC→PTX	13
dose-dence EC→PTX	14
dose-dence EC→PTX	15
EC	16
EC＋Pembrolizumab療法(術前)	17
FEC60	18
FEC75	19
FEC100	20
GEM＋CBDCA＋Pembrolizumab療法	21
iv-CMF	22

nab-PTX+Atezolizumab療法	23
nab-PTX+Pembrolizumab療法	24
Pembrolizumab療法(術前)	25
PER+HER+VNR	26
PTX+CBDCA+Pembrolizumab療法(術前)	28
PTX+Pembrolizumab療法	29
TC	30
TCHP	31
TC+ハーセプチン	32
triweekly DOC	33
triweekly DOC+フェスゴ	34
triweekly ドセタキセル+ハーセプチン	35
triweekly ハーセプチン	36
weekly CPT-11 単独	37
weekly+ハーセプチン併用	38
weekly PTX+フェスゴ	39
weekly アブラキサン	40
weeklyアブラキサン+ハーセプチン	41
weeklyパクリタキセル+ハーセプチン併用	42
weeklyパクリタキセル	43
アバスチン+パクリタキセル3投1休	44
アブラキサン単独	45
アブラキサン+weeklyハーセプチン	46
エリブリン+パージェタ+ハーセプチン	47

エリ布林+フェスゴ	48
カドサイラ	49
サシツズマブ ゴビテカン	50
ジェムザール+ゼローダ	51
ジェムザール2投1休	52
ジェムザール2投1休+weeklyハーセプチン	53
ドセタキセル+ハーセプチン	54
ドセタキセル+ハーセプチン→FEC	55
トラスツズマブ デルクステカン	56
ナベルビン+triweeklyハーセプチン	57
ナベルビン+パージェタ+ハーセプチン	58
ナベルビン+ハーセプチン併用	59
ナベルビン単独	60
パージェタ+ハーセプチン+ドセタキセル triweekly	61
ハーセプチン+TS-1	62
ハーセプチン+ゼローダ	63
ハーセプチンweekly	64
ハラヴェン単独	65
ハラヴェン+weeklyハーセプチン	66
ペルツズマブ・トラスツマブ配合皮下注	67
術後Doc+Her+Per療法→Her+Per維持療法	68
術前DOC+Her+Per療法	69
術前DOC+フェスゴ	70
術後DOC+フェスゴ→フェスゴ維持療法	71

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
(FEC → パクリタキセル)＋ハーセプチン	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	FEC＋ハーセプチン	投与スケジュールの詳細は別紙			week 1～12
②	weeklyパクリタキセル ＋ハーセプチン	投与スケジュールの詳細は別紙			week13～24
③					
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数 FEC＋ハーセプチンレジメンを4コース実施 続いてweeklyパクリタキセル＋ハーセプチンレジ メンを12コース実施 総治療期間は24週間		
その他(特記事項など) ・投与スケジュールの詳細は別紙参照(現在登録済みの2つのプロトコルを継続して実施する) ・ファルモルビシンの投与量は、年齢、心臓機能に応じ、60、75、100mg/m ² のいずれかに調整し、その 投与スケジュールはFEC100、FEC75、FEC60のプロトコルに準じて実施する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
b e v + (weeklyパクリタキセル→F E C)	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシ注0.75mg デカドロン注 生理食塩液	1 V 9.9mg 100mL	点滴	30分	d a y 1
②	エピルビシン注 生理食塩液	100mg/m ² 50mL	点滴	5分 (全開)	d a y 1
③	エンドキサン注 生理食塩液	500mg/m ² 100mL	点滴	15分	d a y 1
④	５－ＦＵ注 生理食塩液	500mg/m ² 50mL	点滴	15分	d a y 1
⑤	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	d a y 1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 1 投 2 休を1コースとして 4 コース施行		
その他（特記事項など） ・ アバスチンはbev＋weeklyパクリタキセル施行時の忍容性に問題がなければ30分に短縮して施行可能。 ・ エピルビシンの量は心機能や年齢により100mg/m ² 又は75mg/m ² で施行する。 ・ 制吐対策として、イメンドを併用する。 ・ bev＋weeklyパクリタキセルを6コース施行後に継続して実施する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
b e v + (weeklyパクリタキセル→F E C)	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート6.6mg ガスター20mg ポララミン注5mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開	day1,8
②	グラセトロンパック3mg	1袋	点滴	30分	day1,8
③	パクリタキセル 生理食塩液	80mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1,8
④	アバスチン 生理食塩液	10mg/kg 100mL	点滴	30～90分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1,8
1コースの期間 14日（2週間）			投与スケジュール及び総コース数 パクリタキセルはweekly アバスチンはbiweeklyで繰り返す 上記を6コース施行		
その他（特記事項など） ・パクリタキセルは0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを使用。 ・アバスチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。 ・bev+weeklyパクリタキセルを6コース施行後、bev+FECに変更する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
B e v +Docetaxel	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ポララミン注 デカドロン注 ゲラニセトロンパッ` 3mg	1 V 6. 6mg 100mL	点滴	30分	d a y 1
②	ドセタキセル注 生理食塩液	75～100mg/m ² 250mL	点滴	60分	d a y 1
③	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	d a y 1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2 1 日（3 週間）			P D まで		
その他（特記事項など）					
・ アバスチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。 ・ 副作用のため、ドセタキセルの投与ができない場合に限り、P D までアバスチンを維持療法として単剤施行することができる。 ・ 本レジメンはアバスチン+パクリタキセルのレジメンの後治療として用いること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
B e v + F E C 7 5	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ デキサート注	50mL 9.9mg	点滴	30分	d a y 1
②	エピルビシン注 生理食塩液	75mg/m ² 50mL	点滴	5分 (全開)	d a y 1
③	エンドキサン注 生理食塩液	500mg/m ² 100mL	点滴	15分	d a y 1
④	5 - F U 注 生理食塩液	500mg/m ² 50mL	点滴	15分	d a y 1
⑤	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	d a y 1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2 1 日（3 週間）			F E C は最大 6 コースまで 維持療法としてアバスチンは P D まで		

その他（特記事項など）

- ・アバスチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。
- ・副作用のため、F E C の投与ができない場合や6コース終了後に限り、P D までアバスチンを維持療法として単剤施行することができる。
- ・本レジメンはアバスチン＋パクリタキセルのレジメンの後治療として用いること。
- ・制吐対策として、イメンドを併用する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
B e v + F E C 1 0 0	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ デキサート注	50mL 9. 9mg	点滴	30分	d a y 1
②	エピルビシン注 生理食塩液	100mg/m ² 50mL	点滴	5分 (全開)	d a y 1
③	エンドキサン注 生理食塩液	500mg/m ² 100mL	点滴	15分	d a y 1
④	５－ＦＵ注 生理食塩液	500mg/m ² 50mL	点滴	15分	d a y 1
⑤	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	d a y 1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 F E Cは最大6 コースまで 維持療法としてアバスチンはP Dまで		
その他（特記事項など） ・アバスチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。 ・副作用のため、F E Cの投与ができない場合や6 コース終了後に限り、P Dまでアバスチンを維持療法として単剤施行することができる。 ・本レジメンはアバスチン＋パクリタキセルのレジメンの後治療として用いること。 ・制吐対策として、イメンドを併用する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
B e v + triweekly アブラキサン	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン注 生理食塩液	6.6mg 100mL	点滴	30分	d a y 1
②	アブラキサン注 生理食塩液	260mg/m ² 100mL	点滴	30分	d a y 1
③	生理食塩液	50mL	点滴	ルート内フ ラッシュ	d a y 1
④	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	d a y 1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2 1 日 (3 週間)			P D まで		

その他（特記事項など）

- ・アバスチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。
- ・副作用のため、アブラキサンの投与ができない場合に限り、P D までアバスチンを維持療法として単剤施行することができる。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
B e v + X e l o d a	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	d a y 1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
	ゼローダ	下記参照	内服		d a y 1 ～ 1 4
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 ゼローダを2 週間連続内服後 1 週間休薬 アバスチンはtriweeklyで投与 → P D まで		
その他（特記事項など） ・アバスチンは初回投与时90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。 ・ゼローダは以下の量を 1 回量として、1 日 2 回朝夕食後に内服する。 体表面積 1.33未満：1,500mg、1.36以上1.57未満：1,800mg、 1.57以上1.81未満：2,100mg、1.81以上：2,400mg ・副作用のため、ゼローダの内服ができない場合に限り、P D までアバスチンを維持療法として単剤施行することができる。 ・本レジメンはアバスチン+パクリタキセルのレジメンの後治療として用いること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
C A F	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ	50mL	点滴	30分	day 1
	デキサート6.6mg	1V			
	デキサート1.65mg	2A			
②	ドキシソルビン 生理食塩液	50mg／m ² 50mL	点滴	15分	day 1
③	エンドキサン注 生理食塩液	500mg／m ² 100mL	点滴	15分	day 1
④	5－F U注 生理食塩液	500mg／m ² 50mL	点滴	15分	day 1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day 1
1コースの期間 21日間（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 1投2休で繰り返す。 標準は4コース、最大6コース。		
その他（特記事項など） ・ドキシソルビンによる血管痛・静脈炎が見られた場合は、点滴速度を早めるなど適宜調整する。 ・ドキシソルビンの総投与量は500mg／m ² を超えないこととする。 ・イメンドを併用する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Classical CMF	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	エンドキサンP錠	100mg/m ²	経口		day1～14
②	ゾフラン注 生理食塩液	1A 50mL	点滴	15分	day1, 8
③	メソトレキセート 生理食塩液	40mg/m ² 50mL	点滴	15分	day1, 8
④	5-FU 生理食塩液	600mg/m ² 50mL	点滴	15分	day1, 8
⑤					
⑥					
1コースの期間 28日（4週間）			投与スケジュール及び総コース数 2投2休（エンドキサンは14日間連続内服）を1 コースとして繰り返す。 6コース実施		
その他（特記事項など） ・エンドキサンは経口で投与し、その量は以下のとおり 体表面積1.5m ² 未満は100mg、1.5m ² 以上は150mgとする					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Classical CMF＋ハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	エンドキサンP錠	100mg/m ²	経口		day1～14
②	ゾフラン注 生理食塩液	1A 50mL	点滴	15分	day1, 8
③	メソトレキセート 生理食塩液	40mg/m ² 50mL	点滴	15分	day1, 8
④	5-FU 生理食塩液	600mg/m ² 50mL	点滴	15分	day1, 8
⑤	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ 4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 2投2休を1コースとして繰り返す。 6コース実施 ハーセプチンはweeklyでPDまで		

その他(特記事項など)

- ・エンドキサンは経口で投与し、その量は以下のとおり
体表面積1.5m²未満は100mg、1.5m²以上は150mgとする
- ・初回投与時のみ4mg/kg、2回目以降は2mg/kg
- ・初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
乳癌CPT-11	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン点滴静注バッグ3mg/100ml デキサート注射液6. 6mg/2ml	1袋 1V	点滴	30分	day1, 8, 15, 22
②	イリノテカン塩酸塩 生理食塩液250ml	100mg/m ² 1V	点滴	90分	day1, 8, 15, 22
③	生理食塩液50ml	1V	点滴	全開	day1, 8, 15, 22
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間 42日			投与スケジュール及び総コース数 4投2休を1クールとして繰り返す。 PDまで継続。		
その他（特記事項など） 副作用が強い場合はday1, 8, 15投与, 2週休薬35日1クール					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
dose-dence AC→PTX	乳がん	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg	1 V 1 V 2 A	点滴	全開	d a y 1
②	ドキシソルビン 生理食塩液	60mg／m ² 50mL	点滴	15分	d a y 1
③	エンドキサン 生理食塩液	600mg／m ² 250mL	点滴	30分	d a y 1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間 1 4 日（2 週間）			投与スケジュール及び総コース数 4 コース		
その他（特記事項など） ・ G-CSF 予防投与下で施行 ・ 4コース施行後、PTXを引き続き施行する ・ イメンドを併用する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
dose-dence EC→PTX	乳がん	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg	1 V 1 V 2 A	点滴	30分	d a y 1
②	エピルビン 生理食塩液	90mg／m ² 50mL	点滴	全開	d a y 1
③	エンドキサン 生理食塩液	600mg／m ² 250mL	点滴	30分	d a y 1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間 1 4 日（2 週間）			投与スケジュール及び総コース数 4 コース		
その他（特記事項など） ・ G-CSF 予防投与下で施行 ・ 4コース施行後、PTXを引き続き施行する ・ イメンドを併用する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
dose-dence EC→PTX	乳がん	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg	1 V 1 V 2 A	点滴	30分	d a y 1
②	エピルビン 生理食塩液	90mg／m ² 50mL	点滴	全開	d a y 1
③	エンドキサン 生理食塩液	600mg／m ² 250mL	点滴	30分	d a y 1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1
1 コースの期間 1 4 日（2 週間）			投与スケジュール及び総コース数 4 コース		
その他（特記事項など） ・ G-CSF 予防投与下で施行 ・ 4コース施行後、PTXを引き続き施行する ・ イメンドを併用する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
EC	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート6.6mg デキサート1.65mg	50 mL 1V 2A	点滴	30分	day1
②	エピルビシン 生理食塩液	90mg／m ² 50mL	点滴	5分	day1
③	エンドキサン 生理食塩液	600mg／m ² 100mL	点滴	15分	day1
④					
⑤					
1コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 1投2休を1コースとして繰り返す。4コース実施。 進行・再発癌にはPDまで		
その他（特記事項など） ・進行・再発癌には繰り返し投与するが、エピルビシンの総投与量は800mg／m ² を超えないこととする。 ・イメンドを併用する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
EC+Pembrolizumab療法（術前）	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	5分	day1
②	ペムブロリズマブ 200mg 生理食塩液100mL	200mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	5分	day1
④	点滴前にイメンド125mg内服 パロノセトロン0.75mg/50ml デキサート6.6mg/2ml デキサート1.65mg/0.5mg	1袋 1瓶 2A	点滴	30分	day1
⑤	エピルビシン 生理食塩液50mL	90mg/m ² 1瓶	点滴	全開	day1
⑥	シクロホスファミド 生理食塩液 250ml	600mg/m ² 1袋	点滴	30分	day1
⑦	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	5分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			4コース		
その他(特記事項など) ・ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌。 ・ペムブロリズマブはインラインフィルターを使用。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
F E C 6 0	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
②	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg	1V 1V 2A	点滴	30分	day1
③	エピルビン 生理食塩液	60mg／m ² 50mL	点滴	5分	day1
④	エンドキサン 生理食塩液	500mg／m ² 250mL	点滴	30分	day1
⑤	5－FU 生理食塩液	500mg／m ² 50mL	点滴	15分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 術前・術後化学療法としては4～6コース 進行・再発に対しては特記事項のとおり		
その他（特記事項など） ・ 進行再発乳癌に対しては、心機能に問題ない場合に限り、エピルビシンの総投与量が900mg/m2を超えない量まで投与を繰り返すことができる。 ・ イメンドを併用する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
FEC75	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg	1V 1V 2A	点滴	30分	day1
②	エピルビン 生理食塩液	75mg／m ² 50mL	点滴	5分	day1
③	エンドキサン 生理食塩液	500mg／m ² 250mL	点滴	30分	day1
④	5－FU 生理食塩液	500mg／m ² 50mL	点滴	15分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 術前・術後化学療法としては4～6コース 進行・再発に対しては特記事項のとおり		
その他（特記事項など） ・ 進行再発乳癌に対しては、心機能に問題ない場合に限り、エピルビシンの総投与量が900mg/m2を超えない量まで投与を繰り返すことができる。 ・ イメンドを併用する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
F E C 1 0 0	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg	1V 1V 2A	点滴	30分	day1
②	エピルビン 生理食塩液	100mg／m ² 50mL	点滴	5分	day1
③	エンドキサン 生理食塩液	500mg／m ² 250mL	点滴	30分	day1
④	5-FU 生理食塩液	500mg／m ² 50mL	点滴	15分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 術前・術後化学療法としては4～6コース 進行・再発に対しては特記事項のとおり		
その他（特記事項など） ・ 進行再発乳癌に対しては、心機能に問題ない場合に限り、エピルビシンの総投与量が900mg/m2を超えない量まで投与を繰り返すことができる。 ・ イメンドを併用する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
GEM+CBDCA+Pembrolizumab療法	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1
②	ペムブロリズマブ 200mg 生理食塩液 100ml	200mg/body 100ml	点滴	30分	day1
③	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1
④	デキサメタゾン 6.6mg グラニセトロン 3mg/100mL	6.6mg 3mg	点滴	30分	day1,8
⑤	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1,8
⑥	ゲムシタビン 生理食塩液 100ml	1000mg/m2 100ml	点滴	30分	day1,8
⑦	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1,8
⑧	カルボプラチン 生理食塩液 250ml	AUC2 250ml	点滴	60分	day1,8
⑨	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1,8
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			PDまで		
その他(特記事項など)					
・PD-L1陽性、ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌。					
・ペムブロリズマブはインラインフィルターを使用。					
・CPS≧10					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
iv-CMF	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	オンダンセトロン注 生理食塩液	1A 50mL	点滴	15分	day1
①	エンドキサン 生理食塩液	600mg/m ² 100mL	点滴	30分	day1
③	メソトレキセート 生理食塩液	40mg／m ² 50mL	点滴	15分	day1
④	5－FU 生理食塩液	600mg／m ² 50mL	点滴	15分	day1
⑤					
⑥					
1コースの期間 28日（4週間）			投与スケジュール及び総コース数 1投3休を1コースとして繰り返す。 6コース実施		
その他（特記事項など）					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
nab-PTX+Atezolizumab療法	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1, 15
②	アテゾリズマブ 840mg 生理食塩液 250ml	840mg/body 250ml	点滴	60分 (30分)	day1, 15
③	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1, 15
④	デキサメタゾン 6.6mg アロキシ点滴静注バッグ 0.75ml	6.6mg 0.75mg	点滴	15分	day1, 15
⑤	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1, 8, 15
⑥	パクリタキセル（アルブミン懸濁） 生理食塩液 100ml	100mg/m2 100ml	点滴	30分	day1, 8, 15
⑦	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1, 8, 15
1コースの期間 28日（4週）			投与スケジュール及び総コース数 テセントリクはday1, 15 アブラキサンはday 1, 8, 15 PDまで		
その他（特記事項など） PD-L1陽性、ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌 アテゾリズマブはインラインフィルターを使用。アブラキサンはインラインフィルターを使用しない。 アテゾリズマブは初回60分、問題なければ2回目以降30分で投与可。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
nab-PTX+Pembrolizumab療法	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	3週毎
②	ペムブロリズマブ 200mg 生理食塩液 100ml	200mg/body 100ml	点滴	30分	3週毎
③	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	3週毎
④	デキサメタゾン 6.6mg アロキン点滴静注バッグ 0.75mg	6.6mg 0.75mg	点滴	15分	3投1休
⑤	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	3投1休
⑥	パクリタキセル(アルブミン懸濁) 生理食塩液 100ml	100mg/m2 100ml	点滴	30分	3投1休
⑦	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	3投1休
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
			PDまで		
その他(特記事項など)					
・PD-L1陽性、ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌					
・ペムブロリズマブはインラインフィルターを使用。アブラキサンはインラインフィルターを使用しない。					
・CPS≥10					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab療法（術後）	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1
②	ペムブロリズマブ 200mg	200mg/body	点滴	30分	day1
	生理食塩液 100ml	100ml			
③	生理食塩液 50ml	50ml	点滴	5分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			9コース		
その他(特記事項など)					
・ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌。 ・ペムブロリズマブはインラインフィルターを使用。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
PER + HER + VNR	HER2陽性乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	ルートキープ	day1
②	ビノレルビン	25mg/m ²	点滴	全開	day1
	生理食塩液50mL	1瓶			
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
④	ペルツズマブ	420mg/body	点滴	30分	day1
	生理食塩液250mL	1袋			
⑤	トラスツズマブ	6mg/kg	点滴	30分	day1
	生理食塩液250mL	1袋			
⑥	生理食塩液250mL	1袋	点滴	本体ルート	day8
⑦	ビノレルビン	25mg/m ²	点滴	全開	day8
	生理食塩液50mL	1瓶			
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			PDまで		
その他（特記事項など）					
・ペルツズマブは初回投与のみ840mgを60分で投与する					
・トラスツズマブは初回のみ8mg/kgを90分で投与する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Per+Her+weekly PTX	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 ガスター20mg ポララミン注5mg デキサート注6.6mg	50mL 1A 1A 1 V	点滴	999mL/h	day1, 8, 15
②	グラニセトロンバッグ	1 袋	点滴	3 0 分	day1, 8, 15
③	パクリタキセル 生理食塩液	80mg／m ² 250 ml	点滴	6 0 分	day1, 8, 15
④	生理食塩液	50m l	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15
⑤	パージェタ 生理食塩液	420mg（初回840mg） 250m l	点滴	30～60分	day1
⑥	ハーセプチン 生理食塩液	6 mg /kg （初回 8 mg /kg） 250m l	点滴	30～90分	day1
1 コースの期間 2 1 日（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 パクリタキセルは毎週投与で合計12回。 ハーセプチン＋パージェタは3週毎で合計1年間。		
その他（特記事項など） ・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。 ・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
PTX+CBDCA+Pembrolizumab療法（術前）	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50ml	1瓶	点滴	5分	day1
②	ペムブロリズマブ 200mg 生理食塩液 100ml	200mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
③	生理食塩液 50ml	1瓶	点滴	5分	day1
④	デキサメタゾン 6.6mg ポララミン 5mg ファモチジン20mg グラニセトロン 3mg/100mL	1瓶 1A 1A 3mg	点滴	5分	day1, 8, 15
⑤	生理食塩液100mL	1瓶	点滴	30分	day1, 8, 15
⑥	パクリタキセル 生理食塩液250mL	80mg/m ² 1袋	点滴	60分	day1, 8, 15
⑧	カルボプラチン 生理食塩液250mL	AUC5 1袋	点滴	60分	day1
⑨	生理食塩液50ml	1瓶	点滴	5分	day1, 8, 15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			4コース		
その他(特記事項など) ・ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌。 ・ペムブロリズマブはインラインフィルターを使用。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
PTX+Pembrolizumab療法	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50ml	1瓶	点滴	5分	3週毎
②	ペムブロリズマブ 200mg 生理食塩液 100ml	200mg/body 100ml	点滴	30分	3週毎
③	生理食塩液 50ml	1瓶	点滴	5分	3週毎
④	デキサメタゾン 6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg 生食50mL	1瓶 1A 1A 1瓶	点滴	全開	3投1休
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	3投1休
⑥	パクリタキセル 生食250mL	90mg/m2 1袋	点滴	60分	3投1休
⑦	生理食塩液 50ml	1瓶	点滴	5分	3投1休
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
			PDまで		
その他(特記事項など)					
・PD-L1陽性、ホルモン受容体陰性、Her2陰性の乳癌					
・ペムブロリズマブ・パクリタキセルはインラインフィルターを使用。					
・CPS≧10					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
TC	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
2	ドセタキセル 生理食塩液	75mg/㎡ 250mL	点滴	60分	day1
3	エンドキサン 生理食塩液	600mg/㎡ 100mL	点滴	15分	day1
4	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day1
5					
6					
1コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 1投2休を1コースとして4コース実施。 進行・再発癌に対しては、引き続きPDまで継続 の場合有り		
その他（特記事項など） イメンドを併用する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
TCHP	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ ポララミン注 デキサート注6.6mg	1袋 1V 1V	点滴	30分	day1
②	ドセタキセル 生理食塩液	75mg/m ² 250 ml	点滴	60分	day1
	カルボプラチン 生理食塩液	AUC 6 250 ml	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50ml	点滴	フラッシュ	day1
④	パージェタ 生理食塩液	420mg(初回840mg) 250ml	点滴	30～60分	day1
⑤	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回8mg/kg) 250ml	点滴	30～90分	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 6コース		

その他(特記事項など)

・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。

・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。

・術後HER+PER維持療法を実施

・イメンド内服

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
TC+ハーセプチン	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg ポララミン注 デキサート注6.6mg	1袋 1A 1V	点滴	30分	day1
2	ドセタキセル 生理食塩液	75mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1
3	エンドキサン 生理食塩液	600mg/m ² 250mL	点滴	30分	day1
4	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回8mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休を1コースとして繰り返す。 TCは4コース、ハーセプチンは1年間		
その他(特記事項など) ・最初の4コースはTC+ハーセプチンで施行、4コース終了後はハーセプチン単独で合計1年経過するまで継続。 ・ハーセプチンは初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。 ・イメンドを併用する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
triweekly DOC	乳癌 肺癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン注8mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
2	ドセタキセル 生理食塩液250mL	100mg/㎡(※) 1V	点滴	60分	day1
3	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
4					
5					
6					
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休を1コースとして繰り返す 進行再発にはPDまで 術前・術後補助化学療法には4コース施行		
その他(特記事項など) ・術前化学療法及び術後補助化学療法は乳癌のみとする。 ・乳癌の標準投与量は75mg/㎡、最大量は100mg/㎡。肺癌の最大量は60mg/㎡とする。 ・ドセタキセルの溶解には原則添付溶解液(アルコール含有)を用いて行う。 アルコール過敏症の患者については、患者登録時にその旨を記載すること。 ⇒生理食塩液溶解法を用いて作成する。					

がん化学療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
triweekly DOC+フェスゴ	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前化学療法 ☐ 術後化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ 局所療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フェスゴ	IN MA（維持）	皮下	初回8分以上、 2回目以降は5 分以上かけて	day1
②	グラニセトロンバッグ	1袋	点滴	30分	day1
	ポララミン注5mg	1V			
	デキサート注6. 6mg	1V			
③	ドセタキセル	75mg/m ²	点滴	60分	day1
	生理食塩水	250mL			
④	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日（3週間）			PDまで		
その他（特記事項など）					

(別紙 2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
triweeklyドセタキセル＋ハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン6. 6mg	1 袋 1 V	点滴	3 0 分	day 1
②	ドセタキセル 生理食塩液	100mg／m ² 250mL	点滴	6 0 分	day 1
③	ハーセプチン 生理食塩液	6mg／kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	9 0 分	day 1
④					
⑤					
1 コースの期間 2 1 日間（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 1 投 2 休で繰り返す P D まで		
その他（特記事項など） ・ 2 回目以降であっても、次回投与予定日（前回投与日から22日後）から 1 週間以上遅れて投与 する場合は、初回投与量の8mg/kgを投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
triweekly ハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	90分	day1
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 進行・再発にはPDまで 補助療法は1年間もしくは2年間		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weekly CPT-11 単独	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1, 8, 15
②	カンプト 生理食塩液	100mg/m ² 250mL	点滴	90分	day1, 8, 15
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1, 8, 15
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 42日(6週間)			投与スケジュール及び総コース数 4投2休を1クールとして繰り返す。 PDまで継続		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weekly CPT-11＋ハーセプチン併用	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1, 8, 15
②	カンプト 生理食塩液	100mg/m ² 250mL	点滴	90分	day1, 8, 15
③	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ 4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1, 8, 15、22
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 3投1休を1クールとして繰り返す。 PDまで継続		
その他(特記事項など) ・ハーセプチンは初回投与時のみ4mg/kg、2回目以降は2mg/kg。初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する					

がん化学療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
weekly PTX+フェスゴ	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前化学療法 ☐ 術後化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ 局所療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フェスゴ	IN MA (維持)	皮下	初回8分以上、 2回目以降は5 分以上かけて	day1
②	生理食塩水 ファモチジン注20mg ポララミン注5mg デキサート注6.6mg	50mL 1A 1A 1V	点滴	全開で	day1, 8, 15
③	グラニセトロンバッグ	1袋	点滴	30分	day1, 8, 15
④	パクリタキセル 生理食塩水	80mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1, 8, 15
④	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15
1 コースの期間 21日 (3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続		

その他 (特記事項など)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
weekly アブラキサン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン6. 6mg 生理食塩液	1 V 100mL	点滴	30分	d a y 1
②	アブラキサン 生理食塩液	100mg/㎡ 50mL（※）	点滴	30分	d a y 1
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	d a y 1
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間 7 日（1 週間）			投与スケジュール及び総コース数 進行・再発にはP Dまで 術前・術後化学療法に対しては12週連続		
その他（特記事項など） ・ アブラキサン1 Vに対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・ 投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
weeklyアブラキサン+ハーセプチン	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン6.6mg 生理食塩液	1V 100mL	点滴	30分	d a y 1
②	アブラキサン 生理食塩液	100mg/m ² 50mL (※)	点滴	30分	d a y 1
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	d a y 1
④	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	d a y 1
⑤					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7 日 (1 週間)			12週連続		

その他 (特記事項など)

- ・ アブラキサン 1 V に対し生理食塩液 20mL で溶解し、そこから必要量を採取して投与する。
- ・ 投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。
- ・ ハーセプチンは初回 90 分で点滴し、インフュージョンリアクションなど副作用発現なければ、2 回目以降 30 分で点滴する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weeklyパクリタキセル＋ハーセプチン併用	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート6.6mg ガスター注 ポララミン注5mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開で	day1,8,15
②	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day1,8,15
③	パクリタキセル 生理食塩液	80mg／m ² 250mL	点滴	60分	day1,8,15
④	ハーセプチン 生理食塩液	weekly: 2mg/kg (初回のみ4mg/kg) triweekly: 6mg/kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	weekly: day1,8,15 triweekly: day1
1コースの期間 weekly: 7日(1週間) triweekly: 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 術前化学療法及び術後補助療法では12週連続投与 進行・再発にはPDまで継続		
その他(特記事項など) ・ハーセプチンは、weeklyの場合は初回投与時4mg/kg、2回目以降は2mg/kg、triweeklyの場合は初回投与時8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとする。 ・ハーセプチンは、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。 ・術後補助療法の場合はPTX終了後もハーセプチンは通算1年間になるまで継続する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weeklyパクリタキセル	乳癌 肺癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注6.6mg ガスター注 ポララミン注5mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1
③	パクリタキセル 生理食塩液	80mg／m ² 250mL	点滴	60分	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日（1週間）			術前・術後化学療法には12週連続で実施 進行・再発癌にはPDまで実施		
その他（特記事項など）					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アバスチン+パクリタキセル3投1休	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート6.6mg ガスター20mg ポララミン注5mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開	day 1, 8, 15
②	グラセトロンパック3mg	1袋	点滴	30分	day 1, 8, 15
③	パクリタキセル 生理食塩液	90mg/m ² 250mL	点滴	60分	day 1, 8, 15
④	アバスチン 生理食塩液	10mg/kg total 100mL	点滴	30～90分	day 1, 15
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1, 8, 15
1コースの期間 28日（4週間）			投与スケジュール及び総コース数 パクリタキセルは3週投与1週休薬 アバスチンはbiweeklyで繰り返す PDまで		
その他（特記事項など） ・パクリタキセルは0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを使用。 ・アバスチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能。 ・副作用のため、パクリタキセルの投与ができない場合に限り、PDまでアバスチン単剤での施行を許容する。 ・血液毒性が起きた場合は、パクリタキセルは65mg/m ² とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アブラキサン単独	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン6. 6mg 生理食塩液	1 V 50mL	点滴	30分	d a y 1
②	アブラキサン 生理食塩液	260mg/㎡ 100mL（※）	点滴	30分	d a y 1
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	d a y 1
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2 1 日（3 週間）			P D まで継続		
その他（特記事項など）					
・ アブラキサン 1 V に対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・ 投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アブラキサン+weeklyハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン6.6mg 生理食塩液	1V 50mL	点滴	30分	d a y 1
②	アブラキサン 生理食塩液	260mg/m ² 100mL (※)	点滴	30分	d a y 1
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	d a y 1
④	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	d a y 1, 8, 15
⑤					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2 1 日 (3 週間)			P D まで継続		

その他 (特記事項など)

- ・ アブラキサン 1 V に対し生理食塩液 20mL で溶解し、そこから必要量を採取して投与する。
- ・ 投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。
- ・ ハーセプチンは初回 90 分で点滴し、インフュージョンリアクションなど副作用発現なければ、2 回目以降 30 分で点滴する。

がん化学療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
エリブリン＋パージェタ＋ハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前化学療法 ☐ 術後化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ 局所療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注6.6mg ポララミン注5mg 生理食塩液50mL	1瓶 1A 1瓶	点滴	全開	day1,8 (day8はポララミンなし)
②	エリブリン 生理食塩液50mL	1.4mg/m ² 1瓶	点滴	全開	day1,8
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1,8
④	パージェタ 生理食塩液	420mg (初回のみ840mg) 250mL	点滴	30～60分	day1
⑤	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	30～90分	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。 ・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。					

がん化学療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
エリブリン+フェスゴ	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前化学療法 ☐ 術後化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ 局所療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フェスゴ	IN MA（維持）	皮下	初回8分以上、 2回目以降は5 分以上かけて	day1
②	デキサート注6.6mg 生理食塩水	1 V 50mL	点滴	全開	day1, 8
③	エリブリン注 生理食塩水	1.4mg/m ² 50mL	点滴	全開	day1, 8
④	生理食塩水	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day1, 8
1 コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 2投1休で PDまで継続		
その他（特記事項など） ・本剤は、アンスラサイクリン系抗悪性腫瘍剤及びタキサン系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法施行後の増悪・再発例に対して使用すること。 ・エリブリンは微量の無水エタノールを含有（1Vあたり0.1mL）しているため、アルコール絶対過敏症の患者には速度を遅らせるなどの対応を行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
T-DM1	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カドサイラ	3. 6mg/kg	点滴	30分 （初回90分）	day1
	注射用水	20mL			
	生理食塩液	250mL			
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			3コース		
その他（特記事項など）					
・ 治験薬100mgバイアルに注射用水5. 0mL又は160mgバイアルに注射用水8. 0mLを注入して溶解し、必要量を採取する。					
・ 0. 2又は0. 22μmのインラインフィルターを使用する。					
・ 初回は90分（±10分）かけて投与する。					
・ 初回を90分で投与し、問題がなければ2回目以降は30分（±10分）に短縮できる。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
サシツズマブ ゴビテカン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
④	デキサメタゾン 6.6mg ポラミン 5mg ファモチジン20mg 生理食塩液	1瓶 1A 1A 50mL	点滴	全開	day1,8
⑤	パロノセトロン0.75mg	1袋	点滴	30分	day1,8
	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1,8
⑧	サシツズマブ ゴビテカン 生理食塩液250mL	10mg/kg 1袋	点滴	初回3時間 2回目以降 は1-2時間 かけて	day1,8
⑨	生理食塩液50ml	50mL	点滴	フラッシュ	day1,8
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 2投1休で PDまで継続		
その他(特記事項など) ・本剤は、周術期または転移再発後にタキサン系の化学療法歴のあるホルモン受容体陰性かつHER2陰性の2nd line以降で使用する。 ・本剤の投与30分前にカロナール500mg × 2錠を服用する。 ・投与時間は3時間とし、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降は1～2時間に短縮できる。 ・好中球数が各サイクル第1日目:1500/mm ³ 、第8目1000/mm ³ 以上であることを確認する。					

(別紙 2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ジェムザール＋ゼローダ	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カイトリルバッグ3mg	1 袋	点滴	3 0 分	d a y 1 . 8
②	ジェムザール 生理食塩液	1000mg／㎡ 100mL	点滴	3 0 分	d a y 1 . 8
③	ゼローダ	1500mg／㎡	内服		d a y 1 ～ 1 4
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間 3 週間（ 2 1 日）			投与スケジュール及び総コース数 ジェムザール 2 投 1 休 ゼローダは 1 4 日連続服用後 7 日間休薬 P D まで継続		
その他（特記事項など） ・ 必要時、カイトリルにデカドロンを追加する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ジェムザール2投1休	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1 袋	点滴	3 0 分	d a y 1 . 8
②	ジェムザール 生理食塩液	1250mg／㎡ 100mL	点滴	3 0 分	d a y 1 . 8
③					
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間 3 週間 （ 2 1 日 ）			投与スケジュール及び総コース数 2 投 1 休を 1 コースとして P D まで継続		
その他（特記事項など） ・ 必要時、グラニセトロンにデカドロンを追加する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ジェムザール2投1休+weeklyハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カイトリルバッグ	1 袋	点滴	3 0 分	day1, 8
②	ジェムザール 生理食塩水	1250mg/m ² 100mL	点滴	3 0 分	day1, 8
③	ハーセプチン 生理食塩水	2mg/kg (初回のみ 4 mg/kg) 250mL	点滴	3 0 分(※)	day1, 8, 15
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間 21日間（3 週間）			投与スケジュール及び総コース数 ジェムザールは2投1 休を 1 コースとして繰り返す。ハーセプチンは毎週投与。P D まで継続		
その他（特記事項など） ・ハーセプチンの投与は初回 9 0 分で行い、Infusion reaction など問題がなければ 2 回目からは 3 0 分で施行する。 ・必要に応じ、カイトリルにステロイドを追加する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ドセタキセル＋ハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
②	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
③	ドセタキセル 生理食塩液	100mg／m ² (※) 250mL	点滴	60分	day1
①	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1、8、15
④					
⑤					
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 ドセタキセルは1投2休、ハーセプチンはweeklyの3週間1コースとして、4コース実施する。 進行・再発癌にはPDまで。		
その他(特記事項など) ・※標準投与量は75mg/m ² 、最大量は100mg/m ² とする。 ・ハーセプチンは、初回投与時のみ4mg/kg、2回目以降は2mg/kg ・ハーセプチンは、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ドセタキセル＋ハーセプチン → FEC	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ドセタキセル ＋ハーセプチン	投与スケジュールの詳細はドセタキセル ＋ハーセプチン参照			week 1～12
②	FEC	投与スケジュールの詳細はFEC参照			week 13～24
③					
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数 ドセタキセル＋ハーセプチンを4コース施行し、 13週目からFECを4コース実施 総治療期間は24週間		
その他(特記事項など) ・投与スケジュールの詳細は別紙参照 ・本レジメンは、「ドセタキセル＋ハーセプチン」のレジメンを予定コース数終了後。引き続いて「FEC」の レジメンを行うものです。 ・FECについては、年齢や心機能等を考慮し、FEC100,75,60のいずれかを選択。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
トラスツズマブ デルクステカン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート グラニセトロンバッグ	6.6mg 3mg/100mL	点滴静注	15分	Day1
②	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	フラッシュ	Day1
③	トラスツズマブ デルクステカン 5%ブドウ糖液	5.4mg/kg 100mL	点滴静注	90分 (2回目以降 30分)	Day1
④	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	フラッシュ	Day1
⑤					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			PDまで		

その他（特記事項など）

- ・ 0.2 μ mのインラインフィルター（ポリエステルスルホン製またはポリスルホン製）を通して投与すること。
- ・ 本剤と生理食塩液との混合を避け、生理食塩液と同じルートを用いた同時投与は行わないこと。
- ・ 点滴バッグを遮光すること。
- ・ 室温で4時間以内、2-8℃で24時間以内。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ナベルビン＋triweeklyハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1
②	生理食塩液	250mL	点滴	本体	day8
③	ナベルビン 生理食塩液	20～25mg／m ² 50mL	点滴	全開 ①、②の側管 から	day1, 8
④	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1
⑤					
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 ナベルビンは2投1休を1クールとして、 ハーセプチンは1投2休(triweekly)で繰り返す。 PDまで継続		
その他(特記事項など) ・①の生理食塩液でルート確保し、ナベルビン側管から全開で滴下する ・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は2mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が29日以上経過している場合は、初回量として投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ナベルビン+パージェタ+ハーセプチン	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注 ポララミン注 生理食塩液	1.65mg 1V 50mL	点滴	全開	day1
②	ナベルビン 生理食塩液	25mg/m ² 50mL	点滴	全開	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	パージェタ 生理食塩液	420mg (初回のみ840mg) 250mL	点滴	30～60分	day1
⑤	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	30～90分	day1
①'	生理食塩液	250mL	点滴	ルートキープ	day8
②'	ナベルビン 生理食塩液	25mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	全開	day8
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。 ・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ナベルビン＋ハーセプチン併用	乳癌 肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1, 8
②	ナベルビン 生理食塩液	20～25mg／m ² 50mL	点滴	5分 ①の側管から	day1, 8
③	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ 4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1, 8, 15
④					
⑤					
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 ナベルビンは2投1休を1クールとして、 ハーセプチンはweeklyで繰り返す。 PDまで継続		
その他(特記事項など) ・①の生理食塩液でルート確保し、ナベルビン側管から全開で滴下する ・ハーセプチンは初回投与時のみ4mg/kg、2回目以降は2mg/kg。初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ナベルビン単独	乳癌 肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	250mL	点滴	本体	day1, 8
②	ナベルビン 生理食塩液	20～25mg／m ² 50mL	点滴	5分 ①の側管から	day1, 8
3					
4					
5					
6					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日(3週間)			2投1休を1クールとしてPDまで継続		
その他(特記事項など)					
・①の生理食塩液でルート確保し、ナベルビンを側管から全開で滴下する					
・ナベルビン終了後、本体は全量フラッシュ					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
パージェタ+ハーセプチン+ドセタキセル triweekly	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ ポララミン注 デキサート注6.6mg	1袋 1V 1V	点滴	30分	day1
②	ドセタキセル 生理食塩液250mL	75mg/m ² (※) 1V	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	パージェタ 生理食塩液	420mg (初回のみ840mg) 250mL	点滴	30～60分	day1
⑤	ハーセプチン 生理食塩液	6mg/kg (初回のみ8mg/kg) 250mL	点滴	30～90分	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		

その他(特記事項など)

・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。

・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。

(※)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ハーセプチン+TS-1	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ハーセプチン 生理食塩液	8mg/kg（初回） 6mg/kg（2回目以降） 250mL	点滴	30～90分	d a y 1、2 2
	又は				
①	ハーセプチン 生理食塩液	4mg/kg（初回） 2mg/kg（2回目以降） 250mL	点滴	30～90分	d a y 1、8、1 5 . . .
	T S - 1	下記参照	内服		d a y 1～28
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4 2 日（6 週間）			ハーセプチンはweekly又はtriweeklyで T S - 1 は4 週間内服後2 週間休薬間休 薬 →P D まで		
その他（特記事項など）					
・ハーセプチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目以降30分に短縮可能。 ・T S - 1 は以下の量を1 回量として、1 日2 回朝夕食後に内服。 体表面積 1.25未満：40mg、1.25以上1.50未満：50mg、 1.50以上：120mg ・T S - 1 の投与量は患者の状態に合わせて適宜減量する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ハーセプチン+ゼローダ	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ハーセプチン 生理食塩液	8mg/kg（初回） 6mg/kg（2回目以降） 250mL	点滴	30～90分	d a y 1
	又は				
①	ハーセプチン 生理食塩液	4mg/kg（初回） 2mg/kg（2回目以降） 250mL	点滴	30～90分	d a y 1、8、1 5 . . .
	ゼローダ	下記参照	内服		d a y 1～21又は 1～14
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2 1 日（3 週間）			ハーセプチンはweekly又はtriweeklyで ゼローダは3 週間内服後 1 週間休薬又は 2 週間内服後 1 週間休薬 →P Dまで		
その他（特記事項など）					
・ハーセプチンは初回投与時90分で施行し、忍容性に問題なければ、2回目以降30分に短縮可能。 ・ゼローダは3 週間連続内服の場合以下の量を 1 回量として、1 日 2 回朝夕食後に内服。 体表面積 1.31未満：900mg、1.31以上1.64未満：1,200mg、 1.64以上：1,500mg ・ゼローダは2 週間連続内服の場合以下の量を 1 回量として、1 日 2 回朝夕食後に内服。 体表面積 1.33未満：1,500mg、1.36以上1.57未満：1,800mg、 1.57以上1.81未満：2,100mg、1.81以上：2,400mg					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ハーセプチン Weekly	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ 4mg/kg) 250mL	点滴	30分 (初回90分)	day1
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日(1週間)			PDまで継続		
その他(特記事項など)					
・初回投与時のみ4mg/kg、2回目以降は2mg/kg ・初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ハラヴェン単独	乳癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	デカドロン6.6mg 生理食塩液	1V 50mL	点滴	全開	d a y 1、8
②	ハラヴェン 生理食塩液	1.4mg/m ² 50mL	点滴	全開	d a y 1、8
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	d a y 1、8
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日(3週間)			2投1休で PDまで継続		

その他(特記事項など)

- ・本剤は、アンスラサイクリン系抗悪性腫瘍剤及びタキサン系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法施行後の増悪・再発例に対して使用すること。
- ・本剤は微量の無水エタノールを含有(1Vあたり0.1mL)しているため、アルコール絶対過敏症の患者には速度を遅らせるなどの対応を行う。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ハラヴェン+weeklyハーセプチン	乳がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴	全開	day 1 . 8
②	ハラヴェン 生理食塩液	1.4mg/m ² 50mL	点滴	全開	day 1 . 8
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day 1 . 8
②	ハーセプチン 生理食塩液	2mg/kg (初回のみ4mg/kg) 250mL	点滴	30～90分	day 1 . 8 . 15
1 コースの期間 2 1 日 (3 週間)			投与スケジュール及び総コース数 ハラヴェン：2 投 1 休 ハーセプチン；weekly PD まで		
その他（特記事項など） ・ハーセプチンは初回のみ90分で点滴し、忍容性に問題がなければ2回目以降30分で点滴可能とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ペルツズマブ・トラスツズマブ配合皮下注	HER2陽性乳癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ペルツズマブ・トラスツズマブ配合皮下注	初回 IN 2回目以降 MA	皮下注	※	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			14サイクル		
その他(特記事項など)					
・INは8分以上かけて					
・MAは5分以上かけて					
・前回投与日から6週以上空いた場合、改めてINを投与し、次回以降はMAを投与する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
術後Doc+Her+Per療法 →Her+Per維持療法	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ	1袋	点滴	30分	day1
	ポララミン注	1V			
	デキサート注6.6mg	1V			
②	ドセタキセル	75mg／m ²	点滴	60分	day1
	生理食塩水	250 ml			
③	生理食塩水	50ml	点滴	フラッシュ	day1
④	パージェタ	420mg (初回:840mg)	点滴	30～60分	day1
	生理食塩水	250ml			
⑤	ハーセプチン	6mg /kg (初回:8mg /kg)	点滴	30～90分	day1
	生理食塩水	250ml			
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 ドセタキセルを含むのは4コース 以後Her+Perのみで計1年間		
その他(特記事項など)					
・術後FEC療法の後に行う ・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。 ・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。 ・術前にHer+Per+Docが投与されている場合、Her+Per投与期間は術前術後を合わせて1年間とする。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
術前DOC+Her+Per療法	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ ボララミン注 デキサート注6.6mg	1袋 1V 1V	点滴	30分	day1
②	ドセタキセル 生理食塩水	75mg/m ² 250 ml	点滴	60分	day 1
③	生理食塩水	50ml	点滴	フラッシュ	day1
④	パージェタ 生理食塩水	420mg（初回840mg） 250ml	点滴	30～60分	day1
⑤	ハーセプチン 生理食塩水	6mg/kg （初回8mg/kg） 250ml	点滴	30～90分	day1
1コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 4コース		

その他（特記事項など）

- ・ハーセプチンは初回投与時のみ8mg/kg、2回目以降は6mg/kgとし、初回のみ90分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。
- ・パージェタは初回投与時のみ840mg、2回目以降は420mgとし、初回のみ60分で点滴し、問題がなければ2回目以降は30分で点滴する。なお、投与間隔が6週間以上経過している場合は、初回量として投与する。
- ・Per+Her+Doc終了時点で明らかな腫瘍残存が認められればFECを施行し、手術とする。

がん化学療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
術前DOC+フェスゴ	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前化学療法 ☐ 術後化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ 局所療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フェスゴ	IN MA (維持)	皮下	初回8分以上、 2回目以降は5 分以上かけて	day1
②	グラニセトロンバッグ ポララミン注5mg デキサート6.6mg	1袋 1V 1V	点滴	30分	day1
③	ドセタキセル 生理食塩水	75mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1
④	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日 (3週間)			4-6コース		

その他 (特記事項など)

(別紙2)

がん化学療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
術後DOC+フェスゴ →フェスゴ維持療法	乳癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前化学療法 ☒ 術後化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ 局所療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フェスゴ	IN MA（維持）	皮下	初回8分以上、 2回目以降は5 分以上かけて	day1
②	グラニセトロンバッグ ポララミン注5mg デキサート6.6mg	1袋 1V 1V	点滴	30分	day1
③	ドセタキセル 生理食塩水	75mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1
④	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 ドセタキセル併用は4コース 以後フェスゴのみで合計1年間		
その他（特記事項など）					